

角田市学校の適正規模等(学校再編・統合)に関する基本構想「第3次行動計画構想」の 具体化に向けた取り組みについて(中間とりまとめ)の説明会開催概要

- 1 目 的** 角田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）では、令和6年3月に角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し、「角田市学校の適正規模等に関する基本構想（令和2年1月策定）」の第3次行動計画構想（①角田小学校と横倉小学校の再編・統合、②桜小学校と北郷小学校の再編・統合、③角田中学校と北角田中学校の再編・統合）について検討してきた。検討委員会で協議してきた内容等を取りまとめた『角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」の具体化に向けた取り組みについて（中間とりまとめ）』を踏まえ、今後、教育委員会としての最終方針を策定するため、中間とりまとめの説明を行うとともに、意見交換等を行うもの。

- 2 参集範囲** 全市民

- 3 説明者** 教育長、教育次長等

4 実施年月日

月日	1/11	1/11	1/13	1/15	1/16	1/17	1/18	1/20	1/21
時 間	10:00	13:30	10:00	18:30	19:00	18:30	10:00	19:00	19:00
場 所	東根	藤尾	小田	北郷	桜	枝野	角田	西根	横倉
参加人数	14人	6人	8人	6人	11人	12人	12人	25人	10人

参加人数合計 104人

- ・実施場所について、角田においては角田市市民センター、その他の地区は自治センターで開催した。どの場所の開催においても地域を問わず参加可能とした。

- 5 説明項目** 角田市学校の適正規模等(学校再編・統合)に関する基本構想「第3次行動計画構想」の具体化に向けた取り組みについて（中間とりまとめ）

6 主な質疑・意見

○学校の再編・統合の全般について

- ・他市町の学校統廃合の情報があれば、教えてほしい。
- 宮城県内の状況について、美里町では、統合後の中学校校舎の建設を行っている。蔵王町では、統合後の中学校校舎を建設するための地盤改良を行っている。白石市、気仙沼市等、統廃合の検討を進めていると聞いている。
- ・県内の学校の統廃合は中学校が多いのか。
- 各市町も小中学校全体を検討しているが、統合するケースが多いのは中学校である。

・学校を統合するまで、少なくとも3年の準備期間が必要と記載されているが、もっと早くできないか。

→統合後、児童・生徒がすぐになじめるよう交流授業等を行うほか、学校施設の改修や統合準備委員会の協議等を行う必要があり、準備には最低3年間を要する。

・角田市全体で小学校を一つにしても適正規模ならば、まずは小学校を一つにすべきである。

→角田小学校と横倉小学校の再編・統合する方針を立てたことが、まず大きな第一歩である。ご意見として承る。

・全国で小中一貫教育を行い、学力が向上した事例や、小中一貫校を新しい場所に新設したことによって、学校を中心に町が活性化した事例もある。そういった全国的成功例を参考にしたいのか。

→検討委員会において、小中一貫校の具現化について話し合ったが、そこまで深まった議論にはなかった。令和7年度に設置する検討委員会の中で、その点も検討していきたい。

・学校が統合され、子ども達が遠くの学校へ通うことは、保護者の心配につながる。統合する場合は、教育委員会として、いかに子どもの安全を守り、どのように保護者に理解してもらえるかを考えていただきたい。

→子ども達や保護者の理解が得られるよう、説明しながら進めていく。また、再編・統合する場合は、交流授業等を開催するなど、両校の子どもたちが打ち解けやすい環境づくり等を進めていく。

・学校の再編・統合には強い反対意見が出ると思うが。

→保護者等アンケートの結果では、学校の再編・統合に肯定的な意見が多かった。様々な考え方があるので、慎重に進めていく。

・横倉小学校は、北郷小学校と桜小学校へ統合すれば良いのではないか。

→ご意見として承る。

・岩沼北中学校や岩沼西中学校のように「北角田小学校」より「角田北小学校」の名称の方が良いのではないか。

→ご意見として承る。

・少子化であることから、学校の統廃合は避けては通れない。

→ご意見として承る。

・新生中学校の建設候補地は、北角田中学校の可能性はあるのか。旧角女高跡地または角田中学校が適地だと思う。

→ご意見として承る。

・すでに統合している学校は、良い方向に進んでいるのか。

→改善すべき点は改善しながら進めている。

・金津小学校は統合した直後だから、金津小学校の統廃合に触れないのか。

→金津小学校は、まだ複式学級になる見込みはない。現時点では、令和 15 年度までに金津小学校を他の学校と統合する計画は無いが、地元等から声があれば、検討する可能性はある。

・角田小学校と横倉小学校の再編・統合について、結論をはっきり示してほしい。

→角田小学校と横倉小学校について、再編・統合を行うという方針が検討委員会で示されたことは、大きな第一歩である。令和 12 年度に横倉小学校で複式学級が発生する可能性がある。ただし、その学年において 2 人増えれば複式学級が解消される。

前回の検討委員会では、3 年先までのことをまとめたが、角田小学校と横倉小学校の再編統合については 6 年先のことなので、状況を見ながら令和 9 年度までに、再度、検討委員会を立ち上げ、協議を進めていければと思う。時間が多少あることから、地域や保護者の方から理解が得られるようにしていきたい。

○検討委員会について

・委員の構成はどうなっているのか。

→検討委員会のメンバーは 19 人。地域代表者として各地区 9 つの行政区長会会長、保護者代表者として 7 つの学校の父母教師会会長、学校関係者として角田市校長会会長・副会長、学識経験者として仙台大学教授である。

○保護者等アンケートについて

・小規模校の良し悪しは、小規模校の保護者や児童生徒しか分からない。アンケート集計結果を小規模校と適正規模校に分けた方が良い。

→アンケート集計結果については、今回の説明会では配付していないが、地区別・学校別で集計した結果もある。また、その資料は市のホームページにて公開しているので、ご覧いただきたい。

・少数意見を大事にしてほしい。

→ご意見として承る。

・アンケートの設問の適正な学級数について、小・中学校の保護者等に、それぞれ同じ質問をしたのか。

→アンケートの質問は、全て同じである。

・「児童生徒数が減少した場合の市が取るべき対応は」の設問については、統合すると回答した方が一番多いが、小規模校の順番も同じか。

→既に統合を行った学校は、統合を肯定する意見が多い。第 3 次行動計画構想で統合の対象となっている桜小学校では、統合を行うが 39.6%、統合を行わないが 9.9%、通学区域の見直しが一番多く 50.5%と全体の傾向から少し異なる。北郷小学校は、統合を行うが 49.4%、通学区域の見直

しが 40.2%、統合を行わないが 9.2%。大規模校の角田小学校は、統合を行うが 60.6%、通学区域の見直しが 24.1%、統合を行わないが 12.3%であった。

- ・ 1 年前に行った地区説明会や保護者等アンケート内容等が検討委員会の協議に生かされているのか。

→地区説明会の概要・アンケート集計結果等は検討委員会に示し、協議するうえでの基礎資料とした。

○複式学級について

- ・ 複式学級とは何か。

→先生一人で2つの学年のクラスを担当するもの。

授業の仕方は2つの方法がある（例をあげて説明）。

- ① 1 人の先生が、授業の前半は1年生に教え、2年生は自習を行い、授業の後半に1年生は自習を行い、2年生は授業を行うという方法
- ② 主に実験等がある理科の授業などで多く使われる手法であるが、今年度の3・4年生で4年生の内容を学習し、翌年度に3年生の内容を学習するという方法

- ・ 複式学級は、学力の低下につながるのではないか。

→一般的に複式学級では先生は教えづらく、また、教えてもらう時間が半分になることへの懸念はあるが、自習の時間が増えることにより、自分で学ぶ力がつくとも言われる。

- ・ 複式学級を行うことはダメなのか。

→検討委員会では、複式学級が発生したら統合することを前提として議論をした訳ではない。小規模校や過小規模校のメリット・デメリットについて共通認識を図り、協議を行った結果である。

- ・ 複式学級は、必ず人数が減った場合に行わなければならないのか。

→1 学年を含む場合は2 学年と合わせて8 人以内、2 学年以上の場合は、隣り合う学年と合わせて16 人以内となる場合に複式学級となることが定められている。ただし、市がお金を出して教員を雇えば、複式学級を回避することは可能だが、現実問題として、市で教員を採用することは難しい。

○通学について

- ・ 学校が統合された場合、通学手段はどうなるのか。

→これまでの統合と同じように、自転車やスクールバスの活用も検討する。

- ・ 統合すると通学距離が長くなるが、国の基準から逸脱しないのか。

→文部科学省の「公立小学校中学校適正規模適正配置等に関する手引き」では、通学時間について明記されており、おおむね1 時間以内としている。現在、ルート毎にスクールバスを出し、1 時間以内となる対応をしている。

- ・スクールバスの駐車場の確保をしっかりと行ってほしい。

→ご意見として承る。

○いじめについて

- ・角田市におけるいじめの状況はどうなっているのか。統合すると環境が変わるのでいじめに発展しやすいのではないかな。

→角田市において、喧嘩やいじめの事例はある。学校では月に1度のいじめアンケートを行い、初期の段階で対応できるようにしている。学校統合を起因とするいじめが発生する可能性はあるが、先生方を中心に対策を行うほか、必要に応じて教育委員会からも学校へ出向いて調査・助言していく。

○学校再編・統合に伴う児童生徒の編入について

- ・金津中学校を角田中学校へ統合した際、編入も認めたと思う。角田中学校と北角田中学校の統合を進める場合、小学校や中学校での編入を認めるのか。

→今後、保護者の皆様等と相談して決めていくことになる。

○地域コミュニティ・まちづくりについて

- ・廃校舎を見ると寂しく、校舎周辺の地域も活気がなくなり、地域の繋がりも希薄になった。

→学校が無くなることにより地域のイベントや地域の繋がりに少なからず影響を及ぼすことは否定できない。教育委員会では、地域学校協働活動本部やコミュニティ・スクールを立ち上げ、地域と学校の連携を図り、活性化するよう進めている。

- ・角田市内に大企業があるにも関わらず人口減少しているのは、子育ての環境等が他自治体より劣っているからである。高校・大学へ進学することを考えても、角田市は不便なところである。

→ご意見として承る。

- ・角田小学校・角田中学校周辺は住宅も多く、新しく住宅を立てることが困難である。住宅を立てやすい地域に学校を建てることは、非常にプラスになると思う。古いものを使うことも大事だが、どんどん人口減少が進む中で、受け身の対応ではなく、周りの自治体よりも目立った画期的な事例を多く取り入れ、角田市に住みたい、角田市で子どもを教育したいと思えるような検討をしてほしい。

→ご意見として承る。

- ・地域のコミュニティは、学校中心に行ってきたところもある。学校の跡地を利用して、地域の活性化を進めていただきたい。市が方針を示せば、地域でも協力できる。

→区長の皆様には、市長部局から説明しているが、地元の意見を伺いながら進めていく。

- ・統合後の教育方針について、丸森町では、統合した学校の学年によって地域の年中行事に子どもたちが参加している。筆甫のへそ大根づくりなど、体験したことの無いような地域行事を学年ごとに体験など、地域と学校の繋がりを行っている。西根は、西根小学校が無くなってから、地域

と子どもたちの関わりが希薄になった。学校の学習の中で、地域行事との連携やコミュニケーションを図るなど、地域との関わりを深く持たせ、地域愛・郷土愛を育み、ゆくゆくは地域に住み続けてもらいたい。統合後の今からでも、北郷小学校でも西根地区の行事をやるなど、子ども達の教育に地域を取り入れてほしい。

→金津小学校では、枝野で稲作、藤尾では伝統芸能で統合後も地域とのつながりを持つなど、全ての学校において、ふるさと学習を地域の協力をいただきながら進めている。これまで地域が育んできた文化を学校でも更に活かせるよう、地域と接点を持って行っていく。地域とのつながりについて、今後も考慮していく。

○校舎等の老朽化について

- ・角田中学校の校舎は、専門家でなくても老朽化していることが分かる。早く新築を進めてほしい。

→校舎等の新設は、計画から建設までに7～8年はかかることが予想される。おっしゃるとおり、再編・統合が決まった場合、早く建設ができるよう工夫しながら進めていく。

- ・中学校の構造物について、角田中学校、北角田中学校のどちらも構造躯体以外の健全性評価を見るとCランクがある。十分検討いただきたい。

→ご意見として承る。

- ・20年に1回、大規模改修等が必要とのことだが、財政面の負担が心配である。

→校舎等の老朽化による改修について、通常は国が3分の1を補助する。学校統合が伴う場合の改修は2分の1に補助率が上がる。今後、学校の改修等については、**そうした国の財源を有効活用**しながら進めていく考えである。

- ・角田中学校と北角田中学校の再編・統合まで、古い校舎等を修繕しながら使用していくのか。二重投資にはならないのか。

→**再編・統合後の新校舎等が完成するまでにはある程度時間がかかる。その間、古い校舎等に通うことになる生徒の教育環境を維持するため、必要な修繕は適宜行っていく。**

○学校建設・整備について

- ・適地選定・整備基本計画策定支援業務委託とあるが、業者に委託するものなのか。

→市だけでは、計画策定・設計・建設等を進めることが困難であることから、適地選定にかかるデータ分析や計画立案のサポートを業者に委託するものである。

- ・中学校の建設候補地は3箇所であるが場所の決定はいつするのか。早く示したほうが良いと考える。

→中学校をどこへ建設し、どのような建物を建築するか、今後、データを揃え、詳細を詰めていく。角田中学校区と北角田中学校区の考え方の違いもあると思われることから、丁寧に説明をし、理解をいただきながら進めていく必要がある。

○角田女子高跡地について

- ・角田女子高跡地について、以前の検討委員会では、角田高校と角田中学校の土地を交換することだった。だが、角田高校を受験する生徒が減っていることから、角田高校も無くなり、土地の交換ができなくなるのではないかと懸念されている。

→角田女子高跡地は県の土地である。市では県から購入するか、もしくは、交換（角田女子校跡地の方が広いので差額が発生する可能性が高い）となる。交換できるのであれば、全体の費用を抑えることができる。

- ・角田女子高跡地の防災面について、近くに阿武隈川の堤防があるので心配である。

→角田女子高跡地は河川敷に近いが、浸水想定が3.0メートル未満で2階以上避難、角田中学校の浸水想定が0.5m未満である。それに対し、北角田中学校は校舎周辺の浸水想定は5.0m未満で3階以上が指定避難場所であり、北角田中学校より角田女子校跡地の方が浸水想定の高さが浅くなっている。土地の嵩上げ等の方法もあるので、今後検討していく。

- ・角田中学校と北角田中学校統合にかかる建設場所を3箇所検討しているようだが、旧角田女子高跡地について県との協議は進んでいるのか。

→宮城県の出資は教育庁施設整備課であり、検討委員会を立ち上げる際に、県の土地を市が購入するか、または、角田女子高の方が広いことから一部交換等の調整をさせていただく可能性があるという説明をしている。

○統合による財政面について

- ・学校の統合をすれば、維持費が抑えられ、人件費も抑えられる。その分教育費に充てられるのではないかと懸念されている。

→通常の学校施設の維持管理に係る経費は国の地方交付税により賄われているほか、教職員の人件費は県で支出しており、市の持ち出しはほとんど発生していない。一方で、教職員以外の職員の人件費や施設の修繕・改修等に係る経費については、市費により賄っているので、学校の再編・統合が進めば進むほど、その分を教育費に回すことができると懸念されている。

- ・新生中学校を建設する場合は、国の補助はあるのか。

→学校の統合を前提とする補助制度がある。

○廃校舎の利活用

- ・学校の統合を進めてから、廃校舎の利活用を地域に相談されても遅すぎる。

→「角田市廃校施設等利活用方針」により利活用を進めている。令和7年1月から東根小学校を貸し出し、藤尾小学校については、現在、公募をかけている。統廃合による空き校舎の利活用については、市長部局が担当になって進めている。

○その他

- ・秋田県は学力が高い。秋田県は人口も子どもの数も少ないのに、なぜ差がつくのか。

→秋田詣と呼ばれているが、全国から授業参観をして謎を探っても、学力が高い理由がわからない

というのが結論であった。秋田と北陸の学力が高いと言われている。

- ・この説明会に小中学生の保護者の出席率が悪いが、学校で説明しているのか。

→学校の一斉配信メールで説明会の開催の案内をしている。

未就学児のご家庭については、子育て支援アプリ「ほっぺなび」で情報提供した。今後、パブリックコメントでもいいのでご意見をいただければと思う。

- ・子どもの数が急激に減る状況なので、自然増が見込めないなら社会増となる施策をお願いしたい。転入者が家を建てるための助成など、角田市では、転入してくる方に対してウェルカムなんだよという施策をもっと考えて欲しい。

→市では、学校給食費完全無償化、保育料無償化を行っている。これらの施策により、角田市に転入してくる世帯があったとの情報を得ている。

そのほか、角田市では、結婚新生活支援事業として、新婚世帯ご夫婦の新居の家賃、住宅取得、引っ越し費用について上限を 30 万円まで支援している。

- ・ふるさと納税が好調のようだが、一般財源化してはいけない。それを見込んで財政を組んでいる自治体が、ふるさと納税の伸び悩みで四苦八苦しているとの報道があった。

→ご意見として承る。